



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No.16

令和6年11月 6日

文責：校長 齋藤和彦

◆校長室より◆ “登校がづらい..状態”

～自分と戦っている薫の子とお母さんへ～

「不登校」などと..一言くくりで語ることができない“登校がづらい..状態”があります。日々、これと戦っている子がいます。

また、「どうして?」「どうしたらいいの?」「私の育て方のせい?」などと、日々..悩み、心配し、不安になり、明日の朝が来るのがつらい..苦しい..お母さん(お父さん)がいます。

“登校がづらい子”は、全国的にも、本市でも年々増加傾向にあります。その理由(要因)はそれぞれ多種多様にあります。

薫小は、そのような子どもにも“行ってみようかな..と思える居場所”をできる限り用意したいと思ってきました。～保健室、通級教室、校長室、職員室になら..行けるかも?【本人が行けそうな場があるなら..全てO.Kです】

次の行動に向かう気力を蓄えるための充電場として、保健室で心を準備し整えて教室に向かう子もいます。校長室でぬり絵にはまって助走期間を過ごした子もいます。職員室のテーブルでなら自学に集中できる子もいました。【どれも本人のがんばっている姿です】

担任の先生もアンテナを高くして、学級学年の子どもの心SOSを察知しようとします。

「担任が迎えに行ったら登校できると言うなら、喜んで行きますよ!」と言い切る先生がいます。放課後登校すると、興味のある理科実験を一緒にしながら心を繋ぐ先生もいます。

それでも、新しいページをめくるようには、「登校がづらい..悩み」は、簡単には解消しません。「何が心配なの?(嫌なの?)」と子どもに聞けば、学校のこと/勉強のこと/友だちのこと/先生のこと..と、子どもも必至で何かしら理由を探します。(探そうとします)学校に行きたくないのだから、学校のことの原因を求めて考えるからです。(親さんも同様に)

子どもが口にした、その..学校の要因を解決解消しても、なかなか“登校がづらい”状態は改善されない場合があります。(多いのです)

なぜでしょう?

子ども本人も、“登校がづらい”理由がよくわからない場合があるからです。まして、その状態や心情を言葉にするなんてことは、心療内科の医師が使うような用語でもないと言表現できない場合が多くあるからです。

～なぜだかわからない。すり傷の治癒を待つように時間が解決してくれるわけでもありません。親ならば、誰もが焦ります。当然です。つらいです。心配ですよ。(分かります)

そのような親さんが特に大変だったこととして、『相談できる人がいなかったこと』という話がありました。学校が(校長が/担任が)そのような存在や場所になっていなかったことを申し訳なく思います。ごめんなさい。

先日、ある親子が、放課後に担任の先生とお話をしに学校に来ていました。“登校がづらい”思いを続けてきた親子です。外が真っ暗になる頃に階段を降りてきました。担任の先生とお母さんの明るい声、そして〇くんの笑顔と元気な姿がありました。「よかった!お母さんも大変だろうけれど、ありがとうございます」という気持ちで、その子の頭をぐりぐりなでました。「よく来たね!元気でよかった」「勉強は遅れないか」「これからどうなるか」心配は多いと思いますが、最も大切なことは、『健康で元気であること』と私は思いました。ほとんどのお母さんは、こう言います。

「～すみません。ご迷惑をおかけして..」

また、こんなことを考えていませんか?

「学校を休んでいるから楽しんではいけません。」「子どもが不登校だから自分が幸せになってはいけません。」などと..(苦しすぎます)

そんな心配や遠慮は、まったく無用です。

何よりも、“子どもが健康で元気”であればチャンスはいくらでも巡ってきます。だから、その日まで、お母さんも“健康で元気に明るく”いてほしい。とそして、子どもにもその明るさを注ぎ続けてあげてほしいと願います。

..こんなことを語っている私も、幼稚園では、姉のクラス(はと組)の軒下で、先生や姉や親を困らせていたみたい..です。

～そんな子も、今、こうして..先生をやってるんです。(笑)

薫小では、できる限りの居場所を可にしたいと思っています。



◆◆ 書籍紹介です ◆◆

◇ 追いつめられていた心が、少しだけ軽くなるかもしれない..不登校題材の作品(まんが)

- ・「子どもが不登校になったので、いろんな人に頼ってみた」
- ・作者：川口 真目(かわぐち まさみ)
- ・オンライン上で読める電子書籍(まんが)